

COM Vol.36 / 2024

NISSEIは、人と車と街と、いい関係。



Front Line ■ 建築家インタビュー

大西 麻貴 + 百田 有希/o+h

Arrangement ■ 納入事例

新虎安田ビル / ザヨコハマフロント / 住友不動産中野駅前ビル

News Topics ■ ニューストピックス

2025年大阪万博「大阪ヘルスケアパビリオン」に物品協賛 / 福島工場の製造現場をYouTube動画で公開 / さらなる安全意識向上へ VR動画による研修を導入 / GrowOneメンテナンス紹介

Information ■ COMプレゼント

日精株式会社



5名 Qi(チー)対応
ワイヤレス充電ングクロック
NISSEIオリジナルノベルティ



2名 「青華—伊東豊雄との対話」
大西 麻貴(著)



30名 QUOカード
1,000円券

本社
〒105-8411 東京都港区西新橋一丁目18番17号(明産西新橋ビル)
TEL.03-3502-9555~7(ダイヤルイン) FAX.03-3597-9548
parking_n@nissei.co.jp

大阪支店
〒541-0053 大阪市中央区本町四丁目4番24号(住友生命本町第2ビル)
TEL.06-6244-9401(代表) FAX.06-6244-9408
osaka_n@nissei.co.jp

札幌営業所
〒060-0042 札幌市中央区大通西八丁目2番地(住友商事・フカミヤ大通ビル)
TEL.011-231-8513(代表) FAX.011-231-8514
sapporo_n@nissei.co.jp

名古屋営業所
〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目14番19号(名古屋伏見Kスクエア 8F)
TEL.052-228-2231(代表) FAX.052-228-2232
nagoya_n@nissei.co.jp

日立支店
〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950番40号
TEL.029-219-9931(代表) FAX.029-219-9932
hitachi_n@nissei.co.jp

山口支店
〒744-0004 山口県下松市青柳一丁目6番15号
TEL.0833-43-6637(代表) FAX.0833-44-1945
yamaguchi_n@nissei.co.jp

福岡営業所
〒812-0038 福岡市博多区祇園町2番35号(プレスト博多祇園ビル3F)
TEL.092-260-8571(代表) FAX.092-260-8573
fukuoka_n@nissei.co.jp



日精(株)ホームページ
<https://www.nissei.co.jp/parking/>

アンケートに答えてプレゼントを当てよう!

応募方法 プレゼントの応募方法は、同封の「アンケート用紙」に必要事項をご記入のうえ、宛名欄に印字されているお客様番号をお忘れなくご記入いただきまして、はがき、またはFAXで、「日精(株)パーキングシステム事業部営業本部」までご返送ください。厳正なる抽選のうえ、プレゼントの当選者を決定させていただきます。また、抽選に外れた方にも全員にQUOカード500円券をプレゼントさせていただきます。プレゼントご応募の締め切りは2024年7月末日まで。なお、プレゼント当選者の発表は当選されました賞品の発送をもちまして代えさせていただきます。

ホームページからも応募できます



www.nissei.co.jp/parking/com

ご回答の皆様
全員にもれなく
QUOカード
500円券
プレゼント



「個」と深く向き合うことが 「個」を超えて広く共有される

2023年の日本建築学会賞(作品)を受賞した
大西麻貴氏、百田有希氏が考える
「インクルーシブ」と建築の可能性とは



大西 麻貴 + 百田 有希/o+h

Maki ONISHI + Yuki HYAKUDA/o+h

建築は、好きなことをずっとつづけていける仕事(百田)
ガウディの「サグラダ・ファミリア」から受けた衝撃(大西)

百田有希(以下、百田) 僕はもともと、体育や音楽、美術など、身体を動かしたり手を動かしたりすることが好きな子供でした。自分の進路を考えるとき「自分の好きなことがそのまま仕事になればいいな」と漠然と思っていた。陸上もやっていたんですけど、マラソン選手になるのも難しいし、美術は好きだけど、アーティストになれるとも思わないし…。そこで、「好

きなことをずっと仕事にしていけそうなものは何かな」と思ったときに、数学や物理も好きだったので、そういう手を動かすことと、学問的なものを併せていくと「建築」かなと思って、建築家を志しました。

大西麻貴(以下、大西) 中学生のときに家族で初めてヨーロッパに旅行に行った先がスペインで、ガウディの「サグラダ・ファミリア」を

見て建築家になりたいと思いました。ひとりの人間が構想したものを、その人が亡くなった後も大勢の人が作っているという事実が驚きでした。たったひとつの建築がバルセロナの街のアイデンティティになることがあり得る、作りながら歴史の一部になっているところがすごいなと。最後に完成した「サグラダ・ファミリア」はもしかしたら、ガウディが生きていたら違うものになっていたかもしれないし、構想したものとは違う可能性もある。でも、そんなことはどうでもいいと思えるくらいすごいことが起こっていると感じましたね。



熊野東防災交流センター外観 ©Kai NAKAMURA

COM Vol.36



CONTENTS

- Front Line ■ 建築家インタビュー
大西麻貴 + 百田有希/o+h 2
- Arrangement ■ 納入事例
新虎安田ビル 8
- Arrangement ■ 納入事例
ザヨコハマフロント 10
- Arrangement ■ 納入事例
住友不動産中野駅前ビル 12
- News Topics ■ ニューストピックス
2025年大阪万博「大阪ヘルスケアパビリオン」に物品協賛
福島工場の製造現場をYouTube動画で公開 14
さらなる安全意識向上へVR動画による研修を導入
GrowOne メンテナンス紹介
- Information ■ COMプレゼント 16

学生時代を過ごした京都で培った
身体の一部の「街」と「道」の視点

百田 京都に6年間下宿したんですけれど、それは生まれて初めて自分の意志で住む場所を決める体験だったと思うんです。新しい生活が「一台の自転車を買う」ところから始まっていくのが面白いな。下宿先から自転車で乗って新しい街を巡ること、経験がどんどん広がっていくんです。



居住滞在型インキュベータ施設 toberu2 ©Yurika Kono

下宿先から自転車に乗って街に出て行き、その途中に鴨川が出てきたり、東山がきれいに見えたり。自分の日常の生活の中に、そういった豊かな、文化的な資産や風景が入ってくるのが京都の街。自分の生活の一部になっていくという感じがしてすごいことだな。京都の街が自分の心と身体の一部になっていく感覚があって、地面をずっと歩いたり自転車で移動したりしていくことを通して、京都という都市を豊かに経験できるということが重要だと思えますよね。東京や大阪って、地下鉄に乗って移動することが多い。そうすると、そういう感覚がなかなか芽生えない。自分と連続したものだという感覚って。京都という街は自然と地続きでとらえられるのが素晴らしい。

大西 わたしにとっても、京都の街で暮ら

「ものを生み出すことば」がある。
伊東豊雄先生との運命的な出会い

百田 京都大学の建築学科というところは、僕たちがいた当時は高松伸さんや竹山聖さんが先生としていらっちゃって「建築は美しくあらねばならない」「最終的に建築は感性で評価される」と教わりました。そういう中で非常勤講師としていらして

せた経験はすごく大きなことで、今、自分たちが建築を考えると、(京都と)つながっているな」と思います。そのひとつは「道」の面白さですね。京都って街の作り方が面白い。わたしたちが一回生のときに、高橋康夫先生という都市史の先生がおられて、先生は京都の都市の歴史を「道」を中心に話してくださいました。京都の都市の歴史って、たとえばそれを地形との関係から話すこともできるし、町家から、あるいはお寺の変遷から話すこともできるんだけど、高橋先生は「道」から話してくださいました。平安京時代の「条坊制」によってグリッド、いわゆる「碁盤の目」のように整備されたのですが、どういう風に道を計画したのか、それを京都の街に住んできた人が、どんな風に「路地」や「突抜」と呼ばれる細い道を通し、細分化しながら使いこなしてきたかとかいうお話があった。また、京都の街を歩いていると、細い路地を通っていくと、その歩いた距離よりも遠い世界に来てしまったように感じます。そういう道の奥行きというものにも気がつかれました。



シェルターインクルーシブプレイス コバル外観

らえたりして、順調に進んでいたと思っていたのですが、伊東さんとの出会いはしばらくトラウマになる経験でした。(笑)
大西 わたしは元々建築を学び始めたきっかけが、「サグラダ・ファミリア」だったので、でもそういう建築って「今の時代にも作ることができるのかなあ」と疑問に

思っていて。伊東さんと学生みんななどで飲みに行ったときに「今の時代にサグラダ・ファミリアみたいな建築を作ることができるとしようか?」という質問を投げかけたら、伊東さんは「できる」とおっしゃって。「時代が違っても、ひとつの建築に同じだけの想いを込めることは可能だ」と。それもわたしにとっては、建築家

になりたいなど改めて感じた瞬間でした。



シェルターインクルーシブプレイス コバル体育館内観

百田 それから2年ぐら経って大学院生のときに、伊東さんが主宰されていたワークショップに参加したんです。福岡の「ぐりんぐりん」という伊東さんが設計された公園があるのですが、その中に東屋を作るというワークショップで、一番良かった案を実現するものでした。そこで、僕たちのチームが選ばれて実現することになりましたが、そのエスキスが僕にとっ

大西 百田は大学の同級生で、はじめはどちらかというとライバルでした。四回生の時に、山形にあるシェルターさんという木造の金物工法の会社が学生設計コンペをされていて。当時学生コンペは今みたいにたくさんなくて、数が限られていたんですけれど、そこに一緒に応募しよう。初めて一緒に設計に取り組んだのですが、その時の経験がすごく楽しくて、それがきっかけで以降一緒に設計しています。その後、東日本大震災の際に伊東さんと「みんなの家」というコミュニティスペースを東松島の仮設住宅団地の中に作る時に、シェルターさんが協力して作ってくださいました。そのときに「公共建築ってこういう風に作れたいのにな」と話していたのです。つまりみんなが、こうあつたらいいなという思いを持ち寄って、ともに作っていくという方ですね。それを本当に実現したのが今回の「コバル」。ずっとつながっているんです。

共同主宰と、「コバル」へとつながる縁。
「インクルーシブ」という考え方

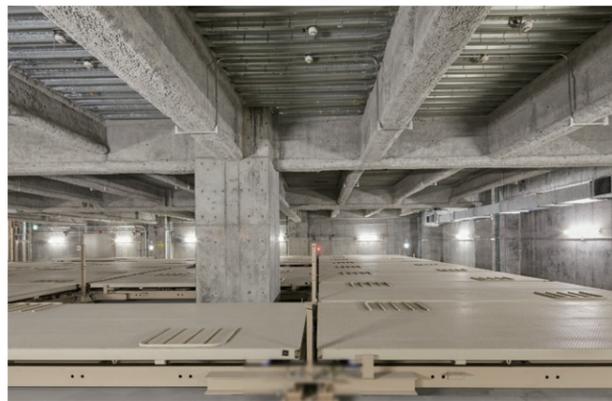
のかがわからないです。よね」という問いかけをしたところ、伊東さんが「ひとつ、浮かんだ洞窟かもしれない」とおっしゃったのです。その敷地は人工の埋め立て地で、地下は作れないような場所なんですけど、そのポリウムが「地面を切り取って地面を持ち上げたもの」と捉えるとどうだろうと投げかけが帰ってきた。その瞬間に土で

作ったら面白いな、埋め立て地に地上の洞窟ができるって面白いな、上には草が生えていて...と、いろんなイメージが頭の中に芽生えてきたのです。「ものを生み出すことば」ってこういうものかと感動して。それがきっかけで伊東さんのところに就職することになり、建築家になろうという勇気を頂きました。

百田 「コバル」(山形市南部児童遊戯施設シェルターインクルーシブプレイス)は障がいのある人や家庭環境の違いなどに関わらず、誰もが遊べる遊び場として構想されました。山形の雪が多い地域は、冬にお子さんが遊ぶ場所が限られてしまい、屋内型の体育館や遊戯施設が各地で作られています。その中で今回のプロジェクトは募集要項から「インクルーシブな場を作ってほしい」と掲げられていた、めずらしいプロジェクトでした。そこで僕たちはいくつかの試みをしたんですけども、空間的な大きな特長となっているのはスロープです。普通スロープというのは、段差を解消するために「必要なもの」として整備されることが多いと思うのですが、同時にスロープは子どもたちにとっては、思わず駆け上がりたくなる坂道でもあるという形で、「ひとつのものに多重の意味を見出ししていく」という方法でデザインすることで、障がいの有無に関わらず魅力的な場になっていま



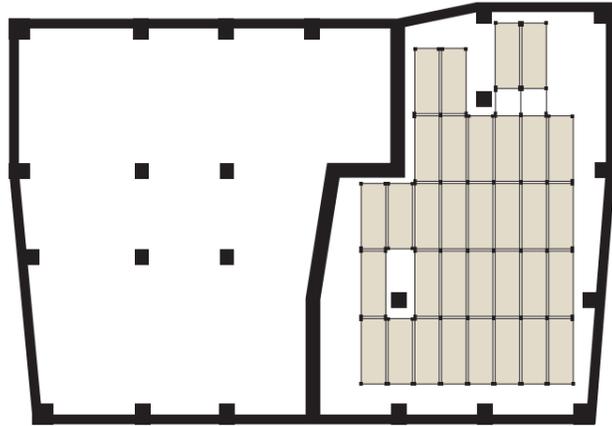
格納部(リフト)



格納部 据付階平面図 右奥側



乗込階(地下1階)平面図

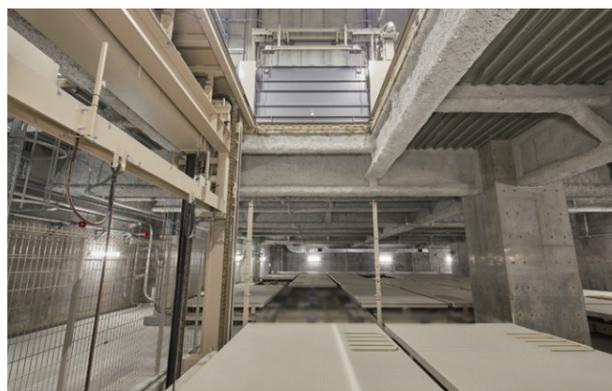


据付階(地下2階)平面図

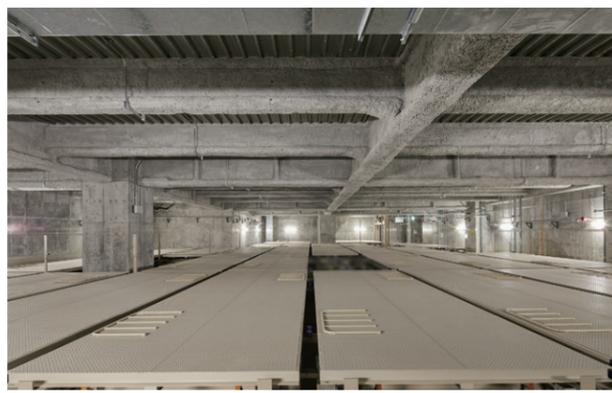
都市部に立地する当ビルの駐車設備には、水平循環方式「フレキシブルパーク」が採用されました。ターンテーブル内蔵により前進入庫が可能となっており、スピーディーな入庫動作はもちろん、段差のないフラットトレーが安全かつスムーズな車の移動を実現し、利用者の快適性を向上させております。また、ビル裏側からアクセスするスロープを下って入出

「人」の「賑わい」を重視するエリアで 最大に発揮される高機動性

庫口に進む設計は、車の滞留を防ぎ、「人」と「賑わい」を分断しません。同方式ならではの設計の自由度を活かし、余剰空間を最小限に抑えた効率的な配置で、地下1層の限られたスペースに最大限の収容台数を確保。私たちは、快適で効率的なビル利用をサポートし、都市環境における利便性の向上に積極的に貢献しています。



リフト部(上部開口)



格納部 据付階平面図 下側(右奥リフト)

新虎安田ビル

東京のシンボルのエリアで スタイリッシュとレトロが調和した新虎安田ビル

東京2020オリンピック・パラリンピック開催の際に、選手村とスタジアムを結ぶ重要な道路の一部として開通、東京の新しいシンボルストリートとなりつつある「新虎通り」。新橋と虎ノ門を結ぶ環状二号線の地上部道路である、この「新虎通り」は、車道とほぼ同じ幅の歩道が左右に設置されるなど、「人」を中心とした「賑わい」を重視したエリアとなっております。「新虎安田ビル」は、このエリアの真ん中あたりに位置、虎ノ門ヒルズと汐留シオサイトのほぼ中間地点にあります。

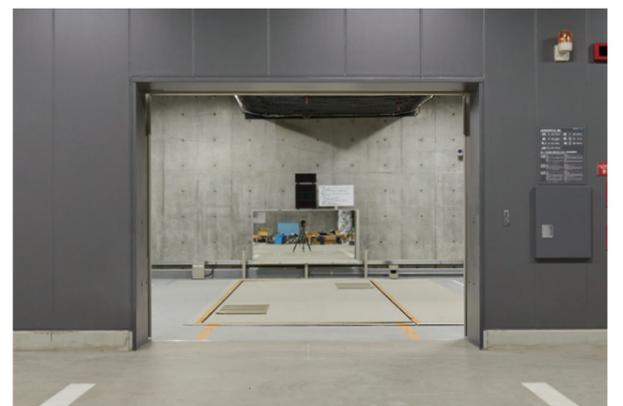
建物全体の外観デザインを、白いキャンパスに見立てたとされているとおり、外観は白。その理由は、新しい価値を創造する場でありたい。という想いを込めたからなのだそうです。また、上階から低層部までシンプルに柱を通して、一体感とスタイリッシュ感が表現されつつ、新虎通りに面した1階部分は、シックでどこか懐かしさを感じさせ

るレトロなテイストで、街並みに調和しながら、その存在感を主張しています。環境への配慮、自由な働き方を叶える空間づくりなど、次世代に求められるものを集結し、未来を見据えた新たなビジネス拠点となる「新虎安田ビル」。このビルで働く人だけでなく、国籍や世代を超え行きかう人々にとって、新たなアイディアを生み出すきっかけが日常的にある、刺激的な場所となることが期待されます。

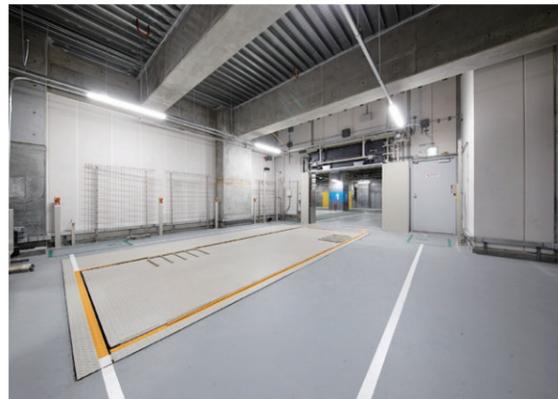


新虎安田ビル 外観

- 【建築概要・規模】
- 建築主 / 安田不動産株式会社
 - 敷地面積 / 2,234.19㎡
 - 延床面積 / 25,819.97㎡
 - 構造規模 / 地上14階、地下2階、塔屋2階
 - 設計 / 株式会社松田平田設計
 - 施工 / 清水建設株式会社
- 【駐車設備概要】
- 機種 / フレキシブルパーク(水平循環方式)
 - 型式 / FLX1LSRH1-30(3)FDHT-B
 - 収容車サイズ / 全長5,300mm×全幅1,950mm×全高2,000mm 重量2,500kg
 - 収容台数 / 大型ハイルーフ車30台



オートドア開閉時



乗降室内部(1号機)



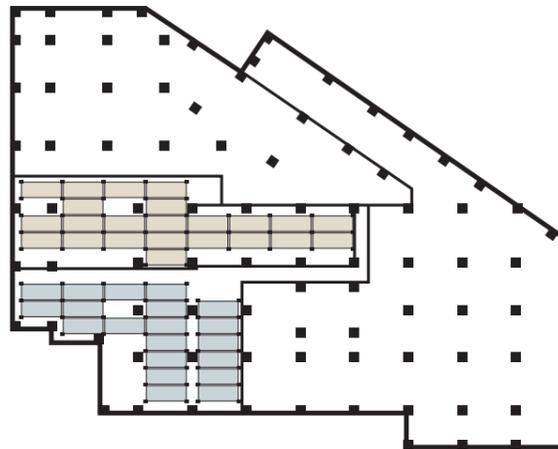
乗降室内部(1号機)



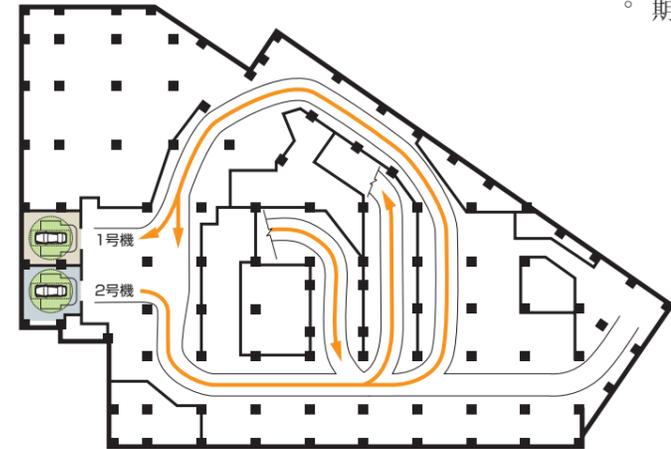
格納部(1号機)



格納部(1号機)



据付階(地下2階)平面図



乗込階(地下1階)平面図

快適性と安全性を 地下駐車場にも

地下駐車場についても不特定多数の利用者に快適な使用をサポートする為に、地下の限られた空間に機械式駐車設備を2基設置。いずれも3

役割を果たす一助につながる「ザヨコハマフロント」の誕生。
全国から人々が訪れ、行き交う横浜の玄関口である横浜駅前(FRONT)で、唯一無二の確かな(THE)シンボルとなり、横浜らしさを生み出していく新しい存在として、威風堂々と完成いたしました。

層のうち2層はハイルーフ対応で、ハイルーフ車を多く収容できるようになっております。
駐車場までの導線も入口と出口で分かれており、スムーズな出入りが可能となっております。地下の共有スペースであり、利用者が安心感を感じることが出来る駐車場の条件として、利便性と安全性は必須です。ICカードを使用した操作による利便性の向上に加え、180度旋回する旋回装置を内蔵することで、車のスピーディーな前進入出庫を実現しています。さらに段差の少ないフラットな乗降スペースなど、乗降時の安全性や快適性に配慮された「フレキシブルパーク」が設

置されることで、利用者のそうした期待にお応えできると言えるでしょう。

THE YOKOHAMA FRONT (ザヨコハマフロント)

機械式駐車設備 ● 納入事例

都心にいながら、都市を俯瞰する！ これからの横浜を牽引する、 横浜駅直結の世界水準タワマン

日本で初めての「国家戦略住宅整備事業」に認定された「横浜駅きた西口鶴屋地区第一種市街地再開発事業」
国家戦略住宅整備事業は、「産業の国際競争力強化および国際的な経済活動の拠点形成」を目的に、住宅整備を促進する事業です。この物件は、グローバル企業の就業者支援に必要な機能が併設され、防災・環境性能にも優れた建物となっています。住宅部分は、従来よりも天井が高い居室、段差がない玄関などのハード面。多言語対応コンシェルジュサービスの提供など、居住者が快適に暮らすための提案、サポートが充実しています。
「ザヨコハマ フロント」全体は、地上43階建ての複合施設です。総戸数459戸の共同住宅、店舗、ホテル、サービスアパートメントなどで構成されています。

最上階(地上42階)には複合施設である「Vlaag yokohama (フラグヨコハマ)」を開業。会員制ワーキングラウンジやイベントスペース「Vlaag yokohama Hall & Studio」、プライベートオフィスを備える開放的なホールです、フラグヨコハマの名には、「未来の兆し(=Vlaag)」溢れるクリエイティブラウンジとして、出会った仲間と明るい未来へ向かう第一歩を支援したい、という想いが込められています。
つねに先進的で、多様な人々が交流する、横浜駅きた西口エリア。この街の幅広いニーズへ応えられるように、店舗やクリニックモールなどの施設も存在しています。
明治以来、横浜は国際都市として発展し続けてきました。今後も変わらず



ザヨコハマフロント 外観



B1階_乗降室



オートドア閉閉時(1号機・2号機)

【建築概要・規模】

- 建築主/横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発組合
- 敷地面積/6,687.15㎡ ■延床面積/79,082.18㎡ ■構造規模/地上43階、地下2階
- 設計/株式会社松田平田設計・株式会社UG都市建築・株式会社東急設計コンサルタント設計共同企業体
- 施工/株式会社大林組

【駐車設備概要】

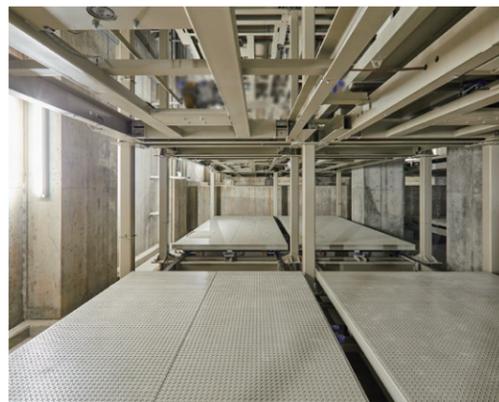
- 機種/フレキシブルパーク(水平循環方式)
- 型式/1号機 FLX1LSH3-58(9)FDHT-B 2号機 FLX1LSH3-49(9)FDHT-B
- 収容車サイズ/
- 1号機 大型車(20台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高1,550mm 重量2,500kg
ハイルーフ車(38台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高2,000mm 重量2,500kg
- 2号機 大型車(17台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高1,550mm 重量2,500kg
ハイルーフ車(32台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高2,000mm 重量2,500kg
- 収容台数/107台(大型車37台、ハイルーフ車70台)



格納部上層



格納部中間層



格納部下層

「住友不動産中野駅前ビル」では、設備面においても先進的な取り組みがなされています。ビルは三段階の無停電供給システムを採用し、万が一の事態に備えて共用部照明などへの72時間連続給電を可能にするBCP(事業継続計画)対策を施しています。さらに、地下駐車場には、日精の「水平循環方式フレキシブルパーク」が採用されており、多様な建築ニーズに応える効率的な駐車ソリューションを提供しています。

大型車30台、大型・ハイルーフ車70台、計100台と大量の収容ができるタイプは国内でも最大収容の部類に入ります。地下の格納部は3層構造。

それぞれ各層ごとにレイアウトが違う構成で、空間効率を最大限に活用することで複雑な地下レイアウトに対応しています。

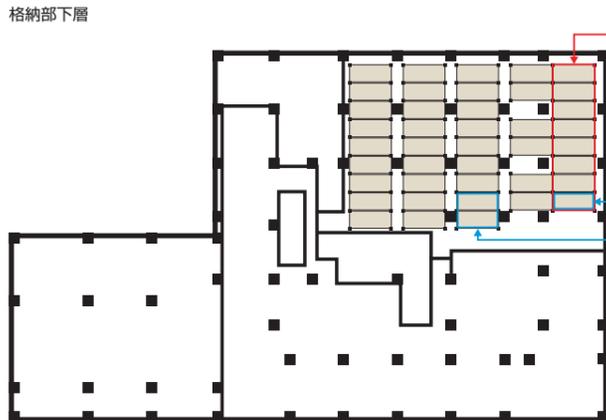
また、乗降室は通り抜け方式で、入り口と出口が前後で設置されていて、入庫時、出庫時のいずれも前進のみ出し入れのスムーズさと安全性が考慮されています。バリアフリーにも対応し、操作盤にはキーを「入」に入れてから暗証操作を行う「テンキー暗証方式」を採用しています。日精の技術は、常に求められる「誰でも」が、「安全」に、「使いやすい」の要請に添えています。



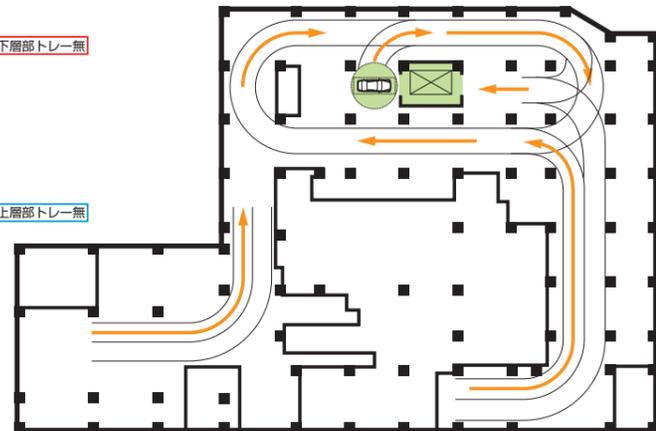
乗降室OUT側オートドア閉



乗降室IN側オートドア閉



平面図 トレー配置図中間層(地下2階)



平面図 乗込階(地下1階)

100台の大規模な収容能力を持つ地下駐車場

ペDESTリアンデッキで駅とながった「住友不動産中野駅前ビル」は、1~5階にはルノアールやココカラファイン、フィットネスジム、メディアカルモールといった商業施設が入居。

それぞれ各層ごとにレイアウトが異なる構成で、空間効率を最大限に活用することで複雑な地下レイアウトに対応しています。

また、乗降室は通り抜け方式で、入り口と出口が前後で設置されていて、入庫時、出庫時のいずれも前進のみ出し入れのスムーズさと安全性が考慮されています。バリアフリーにも対応し、操作盤にはキーを「入」に入れてから暗証操作を行う「テンキー暗証方式」を採用しています。日精の技術は、常に求められる「誰でも」が、「安全」に、「使いやすい」の要請に添えています。



乗降室OUT側オートドア開



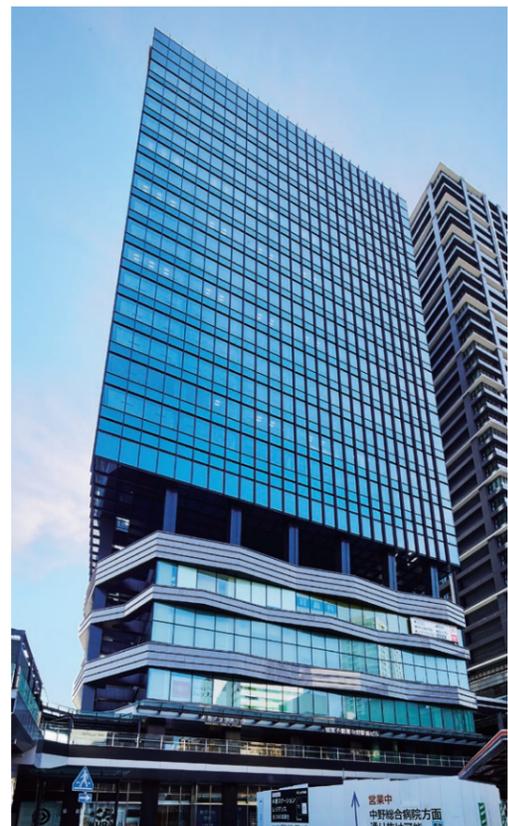
乗降室IN側オートドア開



乗降室OUT側オートドア開



乗降室IN側オートドア開



住友不動産中野駅前ビル 外観

【建築概要・規模】	■ 建築主 / 住友不動産株式会社
	■ 敷地面積 / 5,676.67㎡ ■ 延床面積 / 49,799.23㎡
	■ 構造規模 / 地上20階、地下2階
	■ 設計 / 株式会社アール・アイ・イー
	■ 施工 / 西松建設株式会社
【駐車設備概要】	■ 機種 / フレキシブルパーク(水平循環方式)
	■ 型式 / FLX1LSWRE3-100(10)FD-BT
	■ 収容車サイズ /
	大型車(30台) 全長5,300mm×全幅2,050mm×全高1,550mm 重量2,600kg
	ハイルーフ車(70台) 全長5,300mm×全幅2,050mm×全高2,050mm 重量2,600kg
	■ 収容台数 / 100台(大型車30台、ハイルーフ車70台)

住友不動産中野駅前ビル

JR中野駅前に 職住近接型の施設が新たに誕生!

中野区は現在、中野駅周辺地区で「東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点」としていくため、駅周辺全体を11のまちづくり事業に分け、大規模な再開発事業を行っています。

また、6階~20階にはオフィスが入り、となりの住居棟と一体となった「職住近接」を、古くから親しまれる中野駅前という場所に実現しました。

2030年頃までに、中野駅と中野駅周辺では、新しい駅舎、ホテル、ホール、広場などの建設が予定されています。

若者文化のサブカルチャー発信地として知られていた中野サンプラザなど、中野のシンボルは解体が予定されていますが、こうした再開発の事業によって、中野駅周辺の新たな風景が、中野のシンボルとされる日もそれほど遠くはありません。そして、その時こそ日精のパーキングテクノロジは、未来の風景を支える社会インフラとしてさらなる貢献を果たしてまいります。

デジタル変革をリードする 設備保全業務に革新をもたらす基幹システム

GrowOne メンテナンス

アフターサービス業務を収益の柱に変える「GrowOne メンテナンス」。
当システムは設備保全業務に特化したアフターサービス業務向け基幹システムです。
アフターサービス業務に携わる全ての人・設備をデジタルでつなぐプラットフォームとして機能し、
業務効率化と顧客ロイヤルティ向上により、収益拡大をサポートします。

 01 アフターサービス業務の 収益拡大 部品や設備の交換時期の把握により、営業提案を漏れなく行い、提案漏れによる機会損失を防ぎます。	 02 デジタル化推進による 現場負荷軽減 タブレットを活用し、報告業務を現場で完結させることで、現場負荷を軽減します。	 03 お客さま・協力会社・設備と繋がる プラットフォーム 設備状況や不具合状況をお客さまとリアルタイムに共有し、継続的な関係構築を支援します。
---	--	--

お客様の声 **大成有楽不動産株式会社 様**

決裁の電子化により、
年間4万件分の「紙」と「時間」の削減を達成。

業種:ビルメンテナンス業 / 従業員数:3,000名(2023年1月1日現在) 2021年12月取材

導入の背景・課題	導入効果
1 紙の申請文化が根強く残り、書類作成やFAX送信が大きな負担となっていた。	● 年間4万件分の「紙」と「対応時間」を削減でき、見積依頼に対し、翌日対応が可能になった。
2 点検や対応履歴など、情報の入力が進まず、顧客満足や営業成果につながるナレッジが蓄積されない。	● 日常業務の中で自然とデータが蓄積し、データ活用へチャレンジできる環境が整った。
3 お客様や協力会社との情報連携など、情報を活用した働き方を目指したい。	● システムのオープン化で、お客様や協力会社が直接データを閲覧できるようになり、お客様満足度の向上と報告業務の効率化に寄与した。

続きはこちらで 



今すぐ資料を入手!
ダウンロードはこちら

お問い合わせ先

株式会社 ニッセイコム **03-6774-7212**
【受付時間】平日 9:00 ~ 17:30



当社と株式会社 ニッセイコムは、日精ホールディングスグループの一翼を担うパートナー企業です。



発行日: 2024年6月25日
 通刊第36号
 発行: 日精株式会社
 パーキングシステム事業部
 〒105-8411 東京都港区西新橋1-18-17
 明産西新橋ビル
 TEL. 03-3502-9555 ~ 7 (ダイヤルイン)
 本誌掲載の写真・記事の無断転載および複写を禁じます。

編集後記

日頃より「COM」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。編集スタッフ一同、心から感謝申し上げます。

今号の建築家インタビューでは、青年建築家のコラボレーションとして注目の大西麻貴氏、百田有希氏にお話を伺いました。「インクルーシブ」な建築の可能性を追求されるお二人の世界の一旦をご紹介します。皆様の日々のお仕事の中で何かのヒントになれば幸いです。

日精はこれからも皆様にご満足いただける駐車設備を提案してまいりますと存じます。

今後とも何卒変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。最後にありがとうございました。取材に当たり、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

2025年大阪万博「大阪ヘルスケアパビリオン」に物品協賛



**Osaka
Healthcare
Pavilion
Nest for Reborn**

将来の健康状態予測を体験できる
RFIDタグを物品協賛いたします。

日精は、2025年の大阪・関西万博へ出展予定の「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」へ物品協賛いたします。「Nest for Reborn」は、大阪府と大阪市がオール大阪で出展するパビリオンです。「いのち」と「健康」の観点から未来社会の価値創造を目指し、SDGs先進都市である大阪の姿を世界に示します。

出展のテーマに「人」は生まれ変わる、「新たな一歩を踏み出す」という意味を含めて、「REBORN」を掲げています。「日精」は出展の基本理念に賛同、大阪地域の発展に寄与するため物品協賛を決定いたしました。

私たちが担当するのは、パビリオン来場者に配布されるリストバンドに内蔵された「RFIDタグ」の物品協賛です。来場者が自身のパーソナルヘルスレコードを登録すると、将来の健康状態予測を体験できます。来場の際はぜひ、新技術をお試しください。

2025年大阪・関西万博の成功、そして大阪エリアのさらなる発展に貢献してまいります。



福島工場の製造現場を YouTube動画で公開

日精の先端技術が集結した福島工場
ものづくりへの取り組みを紹介いたします。

1993年4月に稼働をスタートさせた福島工場。「日精」の先端技術を結集させた「フレキシブルパーク」を主力に、機械式地下駐車場設備に必要なトレーやフレーム製造を担う施設です。開発・試験棟や研修施設も併設されており、高い技術力と安全性を最大に配慮したもののづくり、メンテナンスに取り組んでおります。

安心して設置、ご利用いただくために、わたしたちは日々、努力を重ねています。安全・品質管理や製造・検査の様子を動画にまとめましたので、ぜひご覧ください。



さらなる安全意識向上へ VR動画による研修を導入

深刻な事故をリアル再現
プロセスを再認識で、危機管理能力を向上

「日精」のメンテナンス部署では、VR動画による研修を取り入れております。実際に起きる可能性のある落下や巻き込みといった深刻な事故を、バーチャルリアリティを用いてリアルに再現、危機管理能力の強化に努めます。

VR技術の活用で、日々の作業で見落としがちなプロセスを再認識、安全意識向上へ導く新しい取り組みです。

パーキングシステム安全技術研修所で実施している研修内容の一部を体感いただくため、動画配信をスタートいたしました。「日精」の地下駐車場を検討いただいている方、すでに導入いただいているご担当者様やご利用者様に、私たちが誇る安全への取り組みを知っていただければ幸いです。

